

平成十七年度

### 四国地域福祉セミナー

## 大洲市地域福祉(ボランティア)研修会

(八月六・七日)

In 愛媛 大洲

四国地域福祉セミナー  
(こんぴら地域福祉セミナー)とは

すみなれた地域の中で安心して暮らしてつづけるためには住民がお互いに助け合い、共に支えあうまちづくりが必要である。このセミナーはその目標に向かい先進地の事例をもとに、学び、考え、活動に参加することを目的として開催する。

こんぴら地域福祉セミナーは琴平町がふれあいのまちづくり事業に取り組むなかで、地域福祉における住民主体、住民参加の推進には住民が学習し福祉に対する意識を醸成することが肝要であると考え、その学習方法としては広く実践に学ぶということ。そして、できるだけ継続し続けることなどを大橋先生のご指導を頂きながら始めた。

医療・福祉・ボランティア・介護分野の豊かな実践者をシンポジストとして迎え、行政関係者、医療関係

者、民生委員、一般住民に限らず広く地域福祉にかかわる参加者とともに学ぶセミナーとして開催してきた。第七回からは四国地域福祉セミナーとして四国四県に開催地を移しそれぞれの地の福祉実践に学ぶとともに実践者や住民が交流を深め、さらに楽しく豊かに地域福祉実践をすすめて行くことを目指す。

当初からの「琴平」ではなく「こんぴら」という表記は、単に琴平だけということではなく、広く四国全体の地域福祉進展に期待された大橋先生の思い、

こんぴら船々と各地を巡りながらそれぞれの地域の福祉実践が豊かになることがこのセミナーの意義と考える。

(研修会資料から)



大洲市地域福祉(ボランティア)研修会を四国地域福祉セミナーと合同で二日間にわたり開催したところ、四国各地より地域福祉推進の思いを胸に、約三五〇名の方が参加されま



主催者挨拶

した。その内、県外からは約一六〇名が参加され、地域福祉への関心が深まっている事を実感しました。

初日のシンポジウムでは日本社会事業大学長の大橋謙策先生をコーディネーターに、香川県琴平町社会福祉協議会業務課長 越智和子氏から『出会った人たち』、徳島県海南町社会福祉協議会地域福祉権利擁護事業専門員 前野洋子氏から『おかげで助かったよ!』高知県土佐町社会福祉協議会地域福祉コーディネーター

山首尚子氏から『やっぱりここにおってよかったねえ』と言える町をめざして、愛媛県まちづくり支援えひめ代表 前田真氏から『助け合いのしくみづくり』をテーマに、先進地の実践活動について発表がありました。

大橋謙策先生



コーディネーター 大橋謙策先生(左上)と4名のシンポジスト(右下)によるシンポジウムの様子。

これに対し、大橋先生から五つの柱を軸にしたコメントがありました。

○地域の中には様々な問題をかかえ生活している住民がいる。表面化し難い問題を、地域福祉に関わる私達は、どのように発見し支援するのか。

○生活問題は金銭的な問題だけではなく、身体障害、知的障害など様々な問題が複合している。問題解決の為に、保健、医療、福祉の連携がうまくいかなければやれない。

○行政が提供するサービスだけでは対応出来ない課題があり、近隣住民の力・エネルギーが必要となる。

近隣住民の力と行政サービスをうまく連携させていかなければならない。

○地域住民の社会福祉に対する見方を豊かにして、ボランティアとしてどのように参加してもらうのか。

○行政と住民がパートナーシップを組んでどのように街づくりを進めるのか。

その後、四つの分科会に分かれてそれぞれ研修が進められました。



分科会の様子。

☆第一分科会 「被災地支援活動から学ぶ地域コミュニティのあり方」

☆第二分科会 「地域福祉に関する計画策定と福祉のまちづくり」

☆第三分科会 「住民主体の地域福祉活動の拠点づくりにみる学びと実践」

☆第四分科会 「福祉教育ネットワークの現場から」

二日目は、各分科会からの報告の後、今回のセミナーを総括して大橋先生から『地域トータルケアシステムとコミュニティソーシャルワーク』と題して講演がありました。

地域福祉に携わる者として、いかに地域の現状を把握し、身近に潜む問題を発見する事が出来るか。また、その問題を地域課題として捉え、どのように解決に結び付けて行くのか。そのためには、どのような方法があるのか。これを考えて、地域住民の力と行政・医療・保健・福祉などの

関係機関が連携をとりながら課題解決を図る事が重要であるという内容で、参加者は熱心に聞き入っていました。

このセミナーによって、地域住民と各種機関が一体となった支援体制を築く事が、福祉の推進だけではなく、まちづくりのきっかけになると実感できたのではないのでしょうか。

このセミナーをきっかけに、大洲市、さらには四国の地域福祉が発展していく事ができればと願っています。

今回、俳句王国愛媛で四国地域福祉セミナーを開催するということで、『地域のちから五七五 in 大洲』と題して、初日に投句を募集したところ、限られた時間であったにも関わらず、八十六句の投句がありました。

日本伝統俳句協会四国支部事務局 長 丸川越司様、ボランティア研究所 主宰 木谷白童様、俳人協会 会員 白岩チツ子様、ざくろ句会 主宰 森本タルト様（お名前は俳号）の四氏を選者に厳正な審査を行って頂きました。

地域のちから五七五 in 大洲

〈特選〉

セミナーに集ひて心涼しく居

（香川） 富永登美子

蝉の声大洲の里でまちづくり

（徳島） 日開野 博

かがり火に映ゆる肱川落ち鮎魚

（徳島） 岩城 貞時

秋簾仏の父と修羅の父

（愛媛） 白方 雅博

〈並選〉

共生を語るセミナーさるすべり

（東京） 大橋 謙策

夕立や立食パーティーはなやげる

（香川） 篠原千枝子

夕立の遠ざかりたる鶉飼かな

（香川） 森 義幸

夏休みわが子を置いてセミナーに

（徳島） 佐和 良佳

地域福祉頑張ってるねと蝉しぐれ

（徳島） 前野 洋子

夏空のくれなづみつつ宴すすむ

（高知） 市川 浩子

入道雲地域の力広げけり

（愛媛） 丹 豊子

大花火人のつながりつむぐ橋

（愛媛） 萩森 本宮